

平成28年度第3回総合教育会議 会議録

開催日時	平成28年11月22日(火) 午前10時00分～				
開催場所	湯津上庁舎 102会議室				
会議出席状況	市長	津久井富雄	出席		
	教育長	植竹福二	出席		
	教育委員	深澤道昭	出席	川上聖子	出席
		車田宏之	出席	小林朋子	出席
		森泉	出席		
	庶務	教育部長	益子正幸	教育総務課長	大森忠夫
		学校教育課長	月井祐二		
		教育総務課	遠藤久子 ・ 渡邊政典 ・ 川崎優志		

次 第

- 1 開 会 午前10時00分～
- 2 あいさつ 市長
- 3 議 事
 - (1) 親園・佐久山中学校再編整備事業の進捗状況について
 - (2) 小中一貫教育について(佐久山、野崎地区の取組み等)
 - (3) プログラミング教育への取組みについて
- 4 そ の 他 特になし
- 5 閉 会 午前11時00分
- 6 会議の要旨 次のとおり

平成28年度 第3回大田原市総合教育会議

平成28年11月22日（火）

午前10時00分～11時00分

湯津上庁舎 102会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

（1）親園・佐久山中学校再編整備事業の進捗状況について

（2）小中一貫教育について（佐久山、野崎地区の取組み等）

（3）プログラミング教育への取組みについて

4 その他

5 閉会

平成28年度 第3回大田原市総合教育会議 発言要旨

平成28年11月22日(火)

開会：午前10時00分から

- 教育部長 定刻となりましたので、ただいまから、平成28年度第3回 大田原市総合教育会議を開会いたします。
私は教育部長の益子でございます。本日の進行を務めさせていただきます。
初めに、本会議の主催者であります、津久井市長があいさつを申し上げます。

- 市長 (市長 あいさつ)
先日、全国市長会に出席した際の講話について報告いたします。講師は、芝浦工業大学の村上学長で、学生時代に1年間のアメリカ留学経験があったそうで、たいへんカルチャーショックを受けたそうです。おかげで英会話も習得することができたそうです。村上先生は、超電導リニアの研究者であります。そういった研究の中で、日本の教育は一見レベルが低いと解釈されがちですが、世界から見るとそうではなく、たいへんレベルの高いという見解をお持ちだそうです。

これまでに日本は多くの国に支援をしてまいりました。それは世界が認めるところであり、そういったことが東日本大震災の際に191ヶ国という多くの国から支援をしていただく事ができた要因だそうです。2012年の調査では、日本は他国に良い影響をもたらしてくれる1番の国だと評価されているようです。ですから、日本人はもっと自信を持ってよろしいのではないかということでした。

大田原市におきましてもこの総合教育会議の中で、誇れるものや足りないものを見つけながら、来たるべき次代にしっかりと応えられる人材の育成につながる皆様の提言をいただければと思います。

- 教育部長 ありがとうございます。

- 教育部長 それでは、次第の3 議題について協議していただきます。ここからの議事進行は、大田原市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定に基づき、津久井市長が行います。

- 市長 円滑な議事運営に努めさせていただきたいと思いますので、御協力のほどよろしく願いいたします。
本日の議題は次第3に記載のとおり3件でございます。
まず、(1)「親園・佐久山中学校再編整備事業の進捗状況について」につきまして事務局の説明後、協議をお願いいたします。
その後(2)、(3)につきましては一括して事務局から説明をお願いいたします。

- 教育総務課長 (1) 親園・佐久山中学校再編整備事業の進捗状況について
・統合検討委員会の名簿が完成し、委員長に佐久山中学校同窓会長の前田万作氏、副委員長に親園中学校同窓会長の高橋勇丞氏が就任された。

○教育総務課長

・統合の趣旨として、単純に『児童数の少ない学校が多い学校に「編入」される』のではなく、市全体の子供たちの将来を見据え、一定規模の教育環境で学べる学校づくりを目指した「対等」な立場での統合であることを再確認しております。

・統合の手法として、「対等」な統合と「編入」による統合の二つの方法を説明し、検討委員会を開催していくこととなります。

・第1回の検討委員会を開催しましたところ、佐久山地区の委員さんからの発言が多く、佐久山地区から中学校がなくなることを勘案していただければ、「対等」な統合で両校を一旦閉校し、新たにスタートしていただきたいというものでした。また、新たな校名、校章、校歌を作り、一新してほしいというものでした。

・親園地区の意見としては、学校も現親園中学校を利用することになりますので、閉校することなく、存続した形で統合してほしいということでありました。

・全体の意見として、統合については両地区ともやむを得ないということであります。

・その後第2回の検討委員会を11月15日佐久山地区公民館で開催予定でありまして、今度は親園地区の委員さんからの意見を述べていただくこととなります。

・親園地区PTAにおいて、独自に統合についてのアンケートを実施しておりまして、その結果からは、「新設の統合」が望ましいと回答した方が10.3%、「編入による統合」が74.3%、「どちらでもよい」と回答された方が15.3%でありました。この結果からも親園地区の保護者の方は、統合については賛成ですが、「編入による統合」という意見が多くありました。

・やはり両地区ともそれぞれの思いはあるようで当初の意見としては平行線となっております。

・検討委員会の席上、前田委員長から事務局として案を求められましたので、あくまでたたき台としての案をお示ししました。校舎は親園中学校、校歌は佐久山中学校、校章は両校のものを参考にしてはどうかと案をお示したところです。これらを一旦持ち帰っていただき第3回の検討委員会で再度意見交換したいと考えております。

以上が現在の佐久山・親園中学校再編整備事業の進捗状況であります。

○市長

ありがとうございました。皆様からご意見をいただきたいと思えます。川上委員から順にご意見をいただけますか。

○川上委員

生徒たちは統合に対してどのように考えているか、アンケートでもいいので、子供たちの意見というものも聞いてみてはいかがでしょうか。

○車田委員

川西小、蜂巢小、寒井小の統合に検討委員として関わってりましたが、前提として「対等」ということで決まっております、受け入れる川西小は、せつかく来てくれるのだから、新たに歴史をスタートし、校名や校歌も新しいものでもいいという大きな気持ちで受け止めていたと思います。両校とも「対等」や「編入」にこだわっていると統合そのものがうまくいかなくなってしまうことが危惧されます。

また、校名を公募となると同じ人が多く投票できてしまうこともありますので方法はよく検討したほうが良いと思います。

○小林委員

統合に対して子供たちがどのように思っているかを考えて、両地区の方も統合の手法を検討していると思いますが、統合した後に子供たちにとってよかったと思える統合になれば良いと思います。現時点でどちらが良いとは言えませんが、子供たちのことをよく考えて決めていただきたいと思います。

○森委員

お話を聞く限りでは、両地区の意見の偏りが大きいなという印象を受けております。個人的には、親園中学校が佐久山中学校より生徒数が多いということですが、それほど大きな差はないと感じておりますし、「対等」な形で新しくスタートできれば良いのではないかと感じております。また、親園地区からそういった意見も出てきてほしいですし、そこに期待したいと思っております。

○深澤委員

結論としては、「対等」で落ち着いてほしいと思います。それぞれの地区に歴史はあるわけですし、それは尊重してほしいと思いますし、その土地の歴史、文化は大切なものですからお互いに歩み寄って進めてほしいと思います。

○教育長

校舎・校名は親園、校歌は佐久山、校章は両校のものを使用するという案に賛成の意見であります。特に校歌はその学校の大切なものであるので、これを譲るということは7分以上譲歩しているようなものであると感じております。

また、「対等」「編入」という言葉にこだわり過ぎており、何もかもなくなってしまうというようなイメージが先行しているのかと思います。生徒への扱いは何ら変わるものではなく、委員長の前田さんは中立な立場で、佐久山地区の方々も親園地区の方々も一番は子供たちのことを考えてほしいと言っておりますし、そのように決めていってほしいと思います。

○市長

ありがとうございました。この統合については、地域性が話を難しくしているのかなという印象を持っております。また、統合の手法として「対等」「編入」という説明はしなければなりません、あまりに強調し過ぎたのかと思います。

「対等」を前提として、譲る部分をお互いに歩み寄っていくべきなのかなと思います。

○教育総務課長

第1回の検討委員会では、佐久山地区から「対等」でなければという意見があり、第2回は親園地区から「編入」で受け入れたいという意見があり、議論は平行線でありましたが、事務局案をお示ししたことで、親園地区からもそれならば「対等」と同等ではないかという意見もいただきましたし、区長会長も個人的には賛成で、あとは地区に持ち帰ってどうかということでもありますから、ある程度落とすところはこの辺かなと思っておりますし、第3回の委員会で方向性を示していきたいと考えております。

○市長

統合は避けられない問題ですし、検討委員会でよく話し合っただけで進めていただきたいと思っております。

○市 長

つづきまして、(2)小中一貫教育について、(3)プログラミング教育への取組みについて、事務局より一括説明をお願いいたします。

○学校教育課長

(2)小中一貫教育について

野崎中学校区

・グランドデザインの作成から始めたのが、この地区の大きな特徴である。野崎地区とは西那須野の先(崎)にある土地という由来があつてこのような「野乃崎学園」という名称を用いているそうです。

・学園のスローガンは「夢・笑顔・絆」とし9年間見通した継続性のある教育を実施してまいります。

・9年間を大きく3つに分けまして、小学校1年から4年までを基礎期、5年から中学1年までを活用・定着期、中学2年3年を発展・充実期とし、それぞれの目標を立てまして教育活動を進めてまいります。

・特に活用・定着期においては、小学校から中学校を挟む時期になりますので、教科担任制や中学校の職員による教科指導や中学生との交流を実施し、スムーズに移行できる体制づくりを模索し、主に中1ギャップを解消していくことを目標にしております。

・平成29年度には、4つの重点共通活動として「学習指導」「児童生徒指導」「健康指導」「道徳教育」としまして、すでに取組が始まっております。

・この地区の大きな特徴として、系統的なキャリア教育を実施することとなっております。具体策としては、教育課程特例校として英語教育に力を入れており、コミュニケーション能力の育成を図っております。小学校6年生では、英検Jrの取得、中学校においては、英検3級を全員が取れるようにしようと意気込んでおります。

・この野崎地区は、地域との連携も非常に活発で、職場見学や職場体験や高等学校との連携を通じて地域の人材・企業を活用することで9年間を見据えた教育を図ってまいります。

佐久山中学校区

・統合の計画もありますので、予定通りとすれば平成29年度に佐久山中学校が閉校となりますので、平成29年度には親園中学校区との連携も含めて計画を進めていく予定であります。

・「育てよう つなげよう 学び・心・体・佐久山の子」と題し、「生きる力」社会適応力の醸成を重点目標として展開してまいります。

・この目標達成のために、「学力・体力」「社会力」「豊かな心」の3つの分野に分け、それぞれを分析し、教育活動を展開してまいります。

・小中一貫教育を進めるうえでのキーワードを「共有」としまして、小学校、中学校で同じ情報、同じ認識を共有することで9年間を見守っていくこととしております。

○学校教育課長

- ・小中一貫教育推進委員会を組織し、教務部会、P T A・地域連携部会、学習指導部会、生活指導部会、健康指導部会の5つの部会を設置し、9年間を見据えた教育活動を展開してまいります。
- ・両校とも若草中、金田北中学校区のモデル校を参考にしまして、それぞれの特色を生かした一貫教育を進めていると感じております。

(3) プログラミング教育について

- ・平成28年6月16日文部科学省から、平成32年度を目標に小学校でプログラミング教育を必修化する方向で検討に入るといふ文書が発出されております。
- ・本市においても市長、教育長の指示のもとプログラミング教育の導入について現在努力しております。
- ・プログラミング的思考・・・自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのかといったことを論理的に考えていく力（論理的思考力）
- ・平成28年8月31日(株)D e N Aに赴き、市内小学校ICT活用推進教師を対象とした『プログラミング教育についての講話と実習』を開催した。
- ・全員がプログラマーになるのではなく、I T技術を用いて生産性の向上やイノベーションを起こせる人材を育成することを目標としている。
- ・参加した教師からも好意的な感想が多く、具体的なイメージを持って帰ってこれたのではないかと思います。
- ・すでに9月、10月には資料のとおり、プログラミングの基礎的な授業を取り入れており、各学年に応じた教材をもとに進められております。

○市 長

説明が終わりましたので、まずは(2)小中一貫教育についてご意見をいただければと思います。

○市 長

平成29年度には何校開校予定ですか。

○学校教育課長

平成29年度はモデル校の若草中、金田北中学校区で開校しますが、ほかの学校におきましても実質上スタートしており、管理規則を改正するなどありまして、正式には平成30年度から全地区で小中一貫型教育を開校する予定です。

○川上委員

ご説明のありました野崎中学校地区の計画について、全員が英検を取得できるようにしたり、地元企業に協力してもらってのキャリア教育を進めていくなど、たいへん具体的な目標が掲げられおり、すばらしいと感じました。

さらにプログラミング教育などは、子どもたちが教わるだけでなく、地域のお年寄りの方に教えることで、教育を深めていくなどコミュニケーションを取っていったらいいのかなと思いました。

○植竹教育長

小中一貫型教育は、9年間を見通して子供たちを育てていくことが目的であります。1年生から4年生までを基礎期、5・6・7年生までを定着期、8年9年生で総仕上げを行い、晴れて自分の進みたい進路に確実に進めるように導くことが目標であります。

それぞれの学校の特色を生かしながら、学力の向上を図り、9年間をかけて子供たちをしっかりと育て上げることが重要であると思えます。

○市 長

大田原市の小中一貫教育については、小学校、中学校それぞれありますが、中学校を中心に一貫したカリキュラムでもって、地域の特色を生かした教育を進めてまいります。また、教員の相互交流も実施し、9年間で体系的に学ぶ環境を整備してまいります。

プログラミング教育については、技術の進歩が目まぐるしく、ついていくのもたいへんな状況ではありますが、これを身に付けた子供たちと身に付けない子供たちでは、たいへんなICT格差になってしまいますから、教育委員会と相談しながら進めてきたわけですが、実際にやってみれば、それほど難しいものではなく、現場で浸透しつつあるということで安堵しております。

最後に、小中一貫の「道徳教育」の中で、夢や希望を持たせる指導をとありますが、付け加えて、社会貢献や自分のことだけでなく志を持った人間を育む教育をしてほしいと思えます。

○市 長

ほかに質問や意見はないようですので、以上で議題に関する協議を終了します。

滞りなく議事を進行することができましたことに感謝申し上げます。ここからの進行は事務局にお願いします。

○教育部長

貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。次に、次第の4 その他 に移りますが、皆様から何かございますか。

何もないければ、以上で第3回総合教育会議を閉会させていただきます。お疲れ様でした。

閉会：午前11時00分